

スマート保育園。通信

10/2-

Z 月号

特集

「ありがとう」が増えて 明日の保育を考える時間が生まれた!

~ICT導入について~

国立クムクム保育園インタビュー



子どもや保護者・保育者、地域の 人との心温まる「アタタカイヤ

リトリ」を大切にしている聖 光会グループ。その中の1つ である東京都国立市にあ る「国立クムクム保育園」の 秋山園長先生に、ICT連絡 帳・帳票管理ツール「キッズ リー」導入の変化について、お 話を伺いました。

――日ごろの保育で大切にしていること を教えてください

子どものことはもちろんですが、そこに関わる「人」そして「語り合うこと」を大切にしています。私たちは、複数のシフトを取り入れた勤務体系をとっており、また、複数

のクラスをチーム全員で保育するように しているため、情報の共有が欠かせませ ん。子どもの様子を伝え合い、掘り下げて 語り合うことが大切なので、そのための 時間確保にも注力しています。

――国立クムクム保育園では、早くから ICTを導入されていますが、導入前後で の変化は

保育士と、園長・主任などの管理職、そして先輩・後輩間のコミュニケーションが変わりました。

▶保育士の変化

保育士は、保護者とキッズリーの連絡帳 でやり取りをしています。保護者のみなさ まがたくさん書いてくださるので、保育士 もそれに応えたいと、午睡の時間などを 使い返信を書いているのですが、デジタ ルで連絡帳を書くようになり、とても入力 しやすく、文章の修正も紙で書くより簡単 にできて使いやすいようです。

こうして書く時間が短縮されることで、保育士たちは当日の保育を振り返り、明日の保育を考えることに時間をかけることができるようになりました。

また日誌などの帳票もキッズリーで記録 していますが、デジタルで記録ができるの で、保育士が、他のクラスの記録も見るこ とができるんですね。そのため、新人保育 士などは"どのように日誌を書けばよい

か"を先輩の記録を見て、自主的に学ぶことができて、それもよいところだと感じています。

▶園長・主任等、管理職にとっての変化

ICT化でクラスの様子を把握しやすくなったことで、各クラスの保育士と丁寧なコミュニケーションができるようになりました。紙の時代には、気になるクラスの様子を見たい時、保育士が使っていないときに、見たい日にちを探し、紙の記録を持ってきて読む、という動作が必要でした。ICTを入れたことで、気になった時にいつでも、ちょっとした時間を使って各クラスの様子を確認できるようになりました。気になるクラス、気になる日の記録を

さっと見られるので、見る回数が増えたと思います。そのように現場の様子を把握しやすくなったことで、保育士にタイムリーに、かつ具体的に声かけができ、コミュニケーションが増えました。パソコンやスマートフォンがあれば知りたい情報を見に行けて完結できるのが、とても便利でよいですね。主任も、見たい日にちの帳票をピンポイントで見に行けることで、振り返りしやすくなり、記入する際も文章の入力や修正が簡単にできるので「作成が楽になった」と言っています。

▶先輩・後輩間のコミュニケーションの 変化

園全体でも、保育士同士のコミュニケー

ションが豊かになっていることを実感しています。保育士間では、先輩保育士から後輩保育士への"ありがとう"が増えたことで、両者のコミュニケーションが円滑になりました。というのも、保育については





先輩保育士が若手に教えるという関係 になりますが、スマートフォンで写真をと るなど、ICTは若手のほうが慣れるのが 早いため、先輩保育士はわからないことがあると若手に教えてもらい、助けてもらっています。若手の保育士が教えてくれることに対して、先輩保育士から「ありがとう」と感謝を伝えられると、若手もまんざらではないようで(笑)。タブレットを通して保育士同士で小さなことまで情報共有ができるようになり、語り合い、教えあう関係性が生まれていることだけでなく、保育士同士の強みを褒め合い、伸ばし合うことにもつながっています。

――ICTの導入で、保護者との関係には変化がありましたか?

保護者との関係が「風通しがよくなった」 と感じています。もともと当園では、保護 者とのコミュニケーションは挨拶で終わら せず、園での様子などプラスアルファのひ と言をつけ加えるなど、コミュニケーショ ンを大切にしていました。

ICTを導入してから、園でのお子さまの自然体の様子を保護者に伝えるため、保育士がiPhoneで子どもたちの姿を撮影するようになり、その様子は玄関に設置してあるモニターでも投影し、保護者がお迎えの際にその日の様子を見ることができるようにしています。それを見て保育士と保護者、保護者とお子さんとの会話のよいきっかけにもなっています。

また、キッズリーの『園からのお知らせ』機能で、保護者に対する急な連絡もタイムリーに、しかもお子さんが登園していなくても、全員同時に周知できるようになったり、お電話でお伝えするのは躊躇してしまうような体調変化などの第一報も、個別に連絡がしやすくなったりしました。スマートフォンから簡単にできることも、と

ても便利で助かっています。

保護者からの連絡も、手書きだとお家でのお子さまの様子をなかなか伝えられなかった保護者が、毎日のようにたくさん伝えてくれるようになるなど、家庭の様子もわかるようになりました。デジタルに慣れている保護者世代には、紙よりも合っているのかもしれません。

このように、園にとっては、連絡事項をいつでもすぐに伝えられるだけでなく、子どもの様子を何十倍もたくさん伝えられるようになり、また、保護者からも伝わるようになるなどで、多様な家庭に応じたきめ細かなコミュニケーションができるようになりました。

――監査対応の変化はありましたか?

キッズリーで帳票をデジタル化したこと

で、園からのお知らせやお手紙も含めてペーパーレスになりました。監査の準備のために書類を探したり、印刷する労力が減ったことは大きな変化ですね!

また、書類は一定期間保存が必要なため、紙で管理していた時代は、昔の資料はどこに保管していたかと探す手間もかかりましたが、データで一元化できるようになったことで、とても管理しやすくなりました。監査では、監査を実施する課に事前に問い合わせをし、画面を見せて問題ないことを確認したうえで対応できています。

――ICT活用を園に浸透させていくためには、どのように進めていくとよいでしょうか

ICTを使うことで入力時間や手間が削減

されるので、まずは毎日作成する「連絡帳」や「園からのお知らせ」からICTに変えてみるとよいかもしれませんね。

一一今後、国立クムクム保育園ではどのようなことにチャレンジされたいと思っていますか?

歴史も大切ですが、どんどん変わる環境に適応していく必要を感じています。「育ちのためのアップデート」です。保育者も、大切なことを守りつつ、進化していく必要を感じています。そのときに、新しいことを知りたいという気持ちは、保育を楽しむツールにもなります。ありがたいことに、法人には学べる機会がたくさんあるので、職員が日々保育の質の向上のために連携し、研鑽しながら、風通し良く「やってみよう」という気持ちでいられることを大切にしていきたいと思っています。

保育者からの贈り物 Vol.5

おむつは、一体いつからとれるのでしょう。そもそも本当にとれるのでしょうか。トイレトレーニングをする前のわが家では、3歳をむかえ、目前にせまったその時を前に、不安でいっぱいでした。自宅では、何となくおまるに座らせてみたり、トイレに行きたくなったら教えてね、などと伝えたりはしていましたが、目の前でふんばる娘のチャーミングな姿を見ると、とてもトレーニングが成功するイメージはわきませんでした。

けれど、いつかはやらなくてはなりません。おむつがとれないと、行けるプールだって制限されてしまいます。そこで、園の先生に相談してみました。すると「そういうのは、一気にばっととっちゃいましょう」ということで、いきなり開始。えっ、いきなり!?と戸惑う私達を前に、先生は「次回からトレーニング用のパンツをはかせてきてください」と、やる気まんまん。結局、その後、もちろん漏らしちゃったりすることはありましたが、1ヶ月もしないうちにあっさりとおむつがとれてしまいました。

これまでたくさんの園児を見てきたからこその、思い切りの良い的確なアドバイス。さすが保育のプロだとうなったものです。どうしたらいいか迷っているばかりの私達には、とてもまぶしく、ありがたかったです。